

## 1 評価の結果 成果と課題

### (1) 学校運営に関わって

児童・保護者・教職員による共通項目の評価を2学期末の12月に実施した。共通項目とは、子どもたちの元気度、学習指導・学級づくり満足度、安心・安全度、学校の開かれ度の4つである。それらの評価から、子どもたちや保護者の思いを把握し、教職員一人ひとりが、学級経営や授業実践、様々な教育活動の改善につなげるとともに、次年度に向けた課題を捉えることができた。

施設・備品等の環境整備では、予算に応じて、教科等指導に使う備品・設備等、教育活動に必要なもの、児童・教職員の健康安全に係る用具等は優先的に整備を進めてきた。令和3年度は、未更新となっていた1～5年生分の児童用机の更新、児童用椅子の更新(1・2年)、PEN食器の購入、CO<sub>2</sub>測定器の購入等を実現することができた。また、施設・設備の老朽化から突発的に生じた修繕に対し、補正予算にて対応してもらうことができた。一方で、予算要望しているが実現していないものも多くあるため、必要性等も丁寧に説明しながら引き続き要望していく。

### (2) 安全・安心な環境について

各学期の避難訓練を通じて、緊急時の対応について子どもたちに理解させることができた。全校での避難訓練の実施が難しい状況が続くため、各学年・各学級単位での避難訓練や防災ノートを活用した取組をさらに進めていきたい。また、不審者対応の防犯訓練を行い、教職員の防犯意識の向上や防犯行動の確認を行うことができた。今後も引き続き防犯訓練を進め、さらに実践的に行動できるようにしていきたい。

いじめ問題については、子どもたちに年間2回アンケートを実施して早期発見に努めるとともに、必要に応じて個別の相談等も行った。また、児童の様子について定期的に情報交換を行うとともに、各学年で作成した経営案を基に全教員で共通理解を図りながら、一貫した指導を行うことができた。

運動場遊具の点検、樹木の剪定、校舎内外の修繕等も行い、より良い教育環境整備に努めた。

### (3) 大学連携・附属間連携・地域連携について

大学連携の一環としての大学教員が参画した授業は、令和3年度は社会情勢により大学教員が直接来校しての実施は困難であった。一貫教育においては、年3回の小委員会を開催した。令和2年度の反省を活かして10の小委員会を設置し、カリキュラム作りに向けての素案の作成や情報共有、四附共通の個別の教育支援計画等の作成を行うことができた。公開研究会では、学部教員を助言者に、附属中学校教諭を研究協力者にするなど、学部附属間の連携を深めることができた。

地域連携の取組として、橋北中学校区における人権教育・健全育成等において津支部学習会や橋内支部秋季研修会等に参加し、研修・情報共有を行った。研究に関わっては、本校教員が市町・公立小学校校内研修会の講師として複数招聘される機会があった。

### (4) 教育実習について

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中での実習となったが、2週間実習・4週間実習・代替実習を合わせて、112人の学生が教育実習を行った。指導案指導はリモートで行ったが、感染症対策を徹底することで、対面での教育実習を無事に実施することができた。熱心に授業を参観し、放課後の反省会で発言をしたり、自分の指導案を何度も練り直したりする実習生の姿があった。大学における指導が、教育実践によりつながるものになってきており、実習生の様子も積極的・主体

的になってきている。しかし、近年実習生の受入人数が増えてきていることも踏まえ、限られた時間の中で実習生への指導の質を維持・向上できるよう、業務や仕組みの効率化等を一層進めていく必要がある。

#### (5) 教科研究について

令和3年度は、「学びに向かう力を育む授業～各教科等の特質を生かした授業改善～」を研究主題とし、教育ビジョンの実現に向けた学校全体での取組を継続しながら、各教科部会を中心とした研究を進めることができた。各教科の研究紀要をもとに研究授業を行い、成果と課題をまとめた。各学期にほぼ全員が研究授業を行い、全体・合同・各教科・個人で検討を重ねてきた。今後も授業における子どもの姿をもとに、互いに技量を高め合うことを大切にしていきたい。

初めての試みとして、公開研究会を平日にオンライン開催し、県内外から1007人の参加申込者があった。参加者アンケート(回答数188)では、「本校全体の研究について参考になったか」という設問に対して、5段階評価で5が62.2%、4が32.4%という評価を得ることができた。また、360° VR映像による公開研究会に取り組んだことで、情報機器の活用等について教員のスキルが向上するとともに、VR映像を用いることのメリットや今後の課題を整理できた。

#### (6) ICTについて

GIGAスクール構想で一人一台端末と高速ネットワークが整備され、日々の授業での利用、持ち帰りを通じた家庭学習、学級閉鎖時の学習保障など、多岐に渡って効果的な活用を進めることができた。教職員のICT機器の活用力も高まってきている。

### 2 今後に向けて

数年前から、文部科学省から、教育学部及び附属学校園の存在意義を明らかにするよう求められており、附属学校園ならではの教育カリキュラム、実践内容を創造し、地域に還元していくことが責務となっている。令和3年度は、社会情勢により、教育活動が制限されることが多かったが、令和4年度は、大学での学びと学校現場での学びがつながる教育実習、教育研究開発や地域貢献機能を意識した教科等の研究、大学と連携した授業の一層の推進等、大学の附属小学校としての役割を果たしていきたい。

令和4年度の教科研究は、第41次研究1年次となる。前年度までの研究から明らかになったことや本校の子どもの実態から主題を「他者を感じる子どもの育成」と設定し、各教科等の特質を生かした授業を実践しながら研究を推進していく。1年次では公開授業研究会として教育関係者に授業を公開し、授業の質的向上に向け協議するとともに県内外の教育の発展に貢献していきたい。また、1学期には津市内・県内に向けて各教科が対面での外部公開授業を予定しており、講師派遣や出前授業等も含め今後も公立学校等との連携を深め、地域における存在価値を高めていきたい。

安心な環境づくりにおいては、地震や津波、火事、不審者対応について、育友会や附属学校園間で連携しながら、訓練や学習に取り組んでいく。また、不審者情報については、附属学校園間・橋北中学校区での迅速な情報共有のためのさらなる連携を図っていきたい。加えて、教職員が健康で意欲的に職務に取り組むことができるよう働き方を見直すなど、安全衛生面についても一層配慮したい。

いじめ問題への取組については、『いじめ防止基本方針』を基に、教員研修、学習・生活規律の統一を徹底し、子どもと教員、子どもどうしの関係づくりを充実させ、未然防止に努めたい。

また、施設・設備の修繕・充実を大学へ要望し、教育環境等の一層の改善に努めたい。